

# 令和5年度 第1回東御市総合教育会議 会議録

---

## 1 日時

---

令和5年(2023年)6月29日(木) 午後10時30分から正午まで

## 2 場所

---

公室

## 3 議題

---

(1)東御市教育大綱 改定について

## 4 出席者

---

○市長 花岡利夫

### ○教育委員

教育長職務代理者 小林経明

委員 直井良一

委員 五十嵐英美

委員 小林利佳

### ○その他

柳沢教育次長、深井教育課長、柳沢生涯学習課長

重田学校施設・青少年教育係長、安川学校教育係長

横山学校教育係主査

## 会議録

---

柳沢教育次長

ただ今から令和5年度第1回東御市総合教育会議を開催します。  
はじめに市長、小林職務代理からごあいさつをお願いします。

花岡市長

皆様大変お世話になっております。

5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、教育現場でも対応にご尽力いただいているところかと思われま。また、教育長が療養中のなか、小林職務代理をはじめ皆様には多方面でご対応いただいておりますこと、感謝申し上げます。

本日は東御市教育大綱の策定について、忌憚のない意見を互いに交換できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

小林職務代理

本日は、教育行政の根幹となります東御市教育大綱の改定について、市長を交え議論できればと考えております。よろしくお願いいたします。

柳沢教育次長

ありがとうございました。次に議題に入らせていただきます。(1)東御市教育大綱 改定についてでございますが、こちらについては、令和6年度に改定となる東御市教育大綱及び東御市教育基本計画を策定するにあたり、ご意見をいただければと考えているところです。詳細については、事務局から説明させていただきたいと思。います。

深井教育課長

現行の大綱は平成31年度から令和5年度を計画期間とし、基本理念及び7つの基本方針で成り立っています。同時期に策定となります、市の最上位計画である東御市総合計画ともすり合わせを行いながら、次回の総合教育会議で次期基本理念及び基本方針の原案をお示しできればと考えております。

続いて、計画策定時の教育を取り巻く状況等について、社会情勢の変化及び国県の状況について説明させていただきます。(内容説明)

柳沢教育次長

教育大綱の基本理念につきましては、包括的なものであるため大きな変更は必要ないかと考えております。基本方針につきましては、教育基本計画の策定に合わせて、修正していきたいと考えているところです。

#### 直井委員

昨年度の全国学力テストで、平均点に行かない科目が多く見られました。また、不登校についても、県内上位のパーセンテージとなっており、改善策が見出せない状態です。大きな問題として、この2点が挙げられます。

#### 花岡市長

現在、教員の働き方改革が話題になっています。また、保護者が不登校児に対して、これ以上状況を悪化させたくないという不安から、通学してほしいが本人の意思に任せてしまう形を取るといふ、保護者がジレンマを抱えている部分もあると感じています。この2点が学力低下にも関連していると感じ、一筋縄ではいかない問題だと痛感しています。

加えて、保育園と小学校の間で互いに遠慮と葛藤があることで、有機的な連携が取れていないことも課題であると感じています。自由保育と学校生活での集団行動に差がある中で、保育と学校がお互いにすり合わせて良い方向に進めなければなりません。

教育委員の皆さんが感じている課題は、先生の皆さんも感じているところかと思います。現場の先生方がどのように感じ対応しようと考えているかをよく聞き、教育委員会と現場が対立しない形が望ましいと思います。

#### 直井委員

働き方改革は、単に残業時間を短くしようとするものではありません。現状を把握し、その中から無駄を排除することで業務の見直しを図るものです。現在は、「働き方改革」という名前が一人歩きしてしまっているように思います。

#### 小林職務代理

不登校については、全クラス平均的に不登校児童生徒がいるわけではなく、一定のクラスに突出して多い状態である学校もあります。学力についても、クラスにより集中力に差がある状態です。他のクラスの良さを取り入れクラス格差を平均化することで、改善が図られると思われれます。担任のみでなく、学校全体としての組織的な対応が必要になっています。

#### 直井委員

東御市子どもサポートセンターは、開設から個別ケースの対応に非常に熱心に取り組んでおり、頭が下がる思いです。個別対応の充実をその先へ繋げていくためにも、学校全体としての不登校及び学力問題への取り組みがより重要となります。

#### 小林利佳委員

学力の問題は、学校だけでなく家庭での取組との相互作用が必要になってくるとおもいます。学校だけの対応では限界があります。

直井委員

全国学力テストの結果からどこに課題があるかを、学校の教科会や学年会でよく検討し、対応方法を構築する必要がありますが、そこまで実施できていないと感じる部分もあります。

五十嵐委員

子ども第三の居場所事業について、田中小学校の脇に居場所を作る取り組みが進んでいます。が、中学時代に不登校だった子どもが高校の授業で学力不足を感じた際に、もう一回立ち戻り学習できる場になれば良いと個人的に感じています。さらに、小学校等の自分より年下の子どもたちの面倒を見る立場になることで、精神的な成長にも繋がるのではないかと期待しています。

花岡市長

子ども第三の居場所では、2～3歳児の発達障害の可能性のある子をもつ保護者の相談や不安を共有できる場も合わせて検討しています。

児童館は18歳まで利用できる施設ですが、実態としては小学生が利用者の中心となっています。実態として、そこから溢れてしまっている18歳以下の子どもたちも集まれるのが子ども第三の居場所です。五十嵐委員のお話する利用方法も有意義な活用方法であるため、担当と意見交換の場を設けていきたいと思います。

小林職務代理

東御市の取り組みとして、保育関係部署が教育委員会に入るとい話がありますが、実際の状況はいかがですか。

花岡市長

検討段階にあり、現状具体的な内容までは協議していません。双方の納得いく形が整備できたところで実施できればと考えています。

子どもの年齢により、保育園、小学校と、別の機関で対応していますが、あくまで子が成長するいちプロセスを預かる一員として、長期的な成長を支援する体系が理想と考えています。

直井委員

今年度からコミュニティスクールとして、年2回の学校運営協議会が開催されています。年2回の会議では、本当の意味のコミュニティスクールには繋がらないと感じています。私は過去に、北御牧地区で保幼小中までを含めた会議に参加していました。そこでは、お互いにどの年齢階層までどのレベルまでの成長を期待するかを機関を越えて共有する場になっていました。現在は、そのような場が失われていると感じています。

コミュニティスクールも地域を担う人材の高齢化により、活動が下火になっている傾向にあります。が、呼びかければ参加してくれる方はいます。この活動に保育と義務教育の垣根を越えた関係が

加わるのが重要と考えています。

#### 花岡市長

指示待ちの子どもが多いという分析結果のもと、保育園で進めてきたのが自由保育という形です。その結果、保育園ではいい子と呼ばれる子が育っていますが、小学校では集団行動等に難しさを感じる子どもが多くなっている傾向があります。自由保育の中でも、一人ひとりにどう寄り添うかが重視になります。

#### 小林職務代理

幼児教育学は、市長がおっしゃった方向が主流になっています。自由と放任を取り違えないようにしなければなりません。

#### 花岡市長

発達障害を持つ子どもについても、親の理解を得て、幼年期の噛みつきや叩いてしまう等の暴力的なふるまいについて教育し、小学校中学校と成長する過程でのコミュニケーションの取り方を覚えることが、長期的にその子どもたちのためになると考えます。

自由保育ということのみに捕らわれず、一人ひとりの特性に合わせた対応が必要となります。

#### 直井委員

自由保育は子どもたちが何でも自由にしているということではありません。条件や保育の方針がある中で、どのように子どもたちが考え実践していくかが求められるものです。

#### 小林利佳委員

入学間もないことで集団行動に慣れていない子どもたちの支援のため、朝数時間1年生の教室に入っています。10年ほど携わっていますが、ここ数年で子どもたちの様子が変わってきています。保育士の方に話を聞いたところ、「本当はもっと注意したいが子どもが拒否したことについては強く言えずに困っている」という話も聞きました。実際に1年生になった時に、並ばなきゃいけない、静かにしなければいけないという集団行動が苦手になっている子どもたちが多く見受けられるようになってきています。そのような子にも、一人ひとりに声掛けをすることで、今の時期になると集団行動ができるようになってきます。特性を持つ子どもにも、丁寧に説明することで理解することができました。保育園の頃から、成長にあった形でルール等を教えていく関わり方も大切だと感じました。

連携という面でも、保育士と小学校の先生の話し合いの機会を設け、子どもたちの状況を共有することが必要だと考えています。

#### 小林職務代理

連携という面では、小学校は県の人事であるため、連携が上手くいった先生が異動すると一か

らになってしまいます。異動があっても連携を保てるよう、保育部門を教育委員会に入れることで、それぞれの現場を繋げる役割を教育委員会が持てるのではないのでしょうか。

花岡市長

保小連携が必要というプロセスの中で、福祉の所管と教育の所管をどのように連携させていくかを考えたところ、保育を教育委員会に組み込み、福祉は側面的に支援していくという形がいいのではと考えています。一方で、学校の手の届かない家庭の問題については、福祉の所管のほうが対応しやすいという面もあります。多様な課題に対し、より適切な対応を実践するため、今後も話し合いを進めてまいりたいと思います。

小林職務代理

ぜひお願いします。

直井委員

学校施設の長寿命化ですが、現在の施設を今後 20 年使い続けるためにも、改修が必要な箇所を精査する必要があると思います。

花岡市長

必要な箇所は随時改修していく予定です。子どもたちの学習環境を良くすることが目的ですので、まず第一に耐震とトイレの改修に着手しています。

小林職務代理

今後の取り組むべき事項に、タブレット、デジタル教材の長所、特性を活かした ICT 教育の導入の推進という項目が挙げられていますが、これまでに導入から利用開始までの取り組みが済んでいると思われかもしれませんがいかがでしょうか。

花岡市長

ここで言う導入の推進は、次期端末の買い替えについても国の予算措置が必要ということから挙げられています。

小林職務代理

つまり国の取り組むべき課題ということではないのでしょうか。現在は、逆にアナログも大切ということが叫ばれています。現状の ICT 教育は継続していくことは前提で、重点的に取り組むべき事項としては項目から外してもいいかと考えます。

花岡市長

参考とさせていただきます。

柳沢教育次長

ありがとうございました。以上で令和5年度第1回総合教育会議を閉会とさせていただきます。